

# 地域医療学

[講義] 第3学年 前期 必修 [授業方法：PBLを含む] 2単位

《担当者名》講師 / 中山 章  
 講師 / 櫻田 涉  
 客員教授 / 狭間 研至 (ファルメディコ株式会社・代表取締役社長)

## 【概要】

人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。

## 【学修目標】

患者の権利を考慮し、責任をもって医療に参画できるようになるために、医薬品医療機器等法、薬剤師法などの医療及び薬事関係法規、制度の精神とその施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身につける。

地域の保健・医療の現状と課題、良質な医療を確保するための枠組み、地域における薬局機能と薬剤師の役割について理解し、未病・予防、治療、予後管理・看取りまでの地域の保健・医療へのニーズに対応する能力を身に付ける。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	コミュニティファーマシー 教科書：上 p10～15	<p>薬局薬剤師業務の変遷について説明できる。            医薬分業の意義と動向を説明できる。            地域における薬局の機能と業務について説明できる。            地域包括ケアの概要について説明できる。            地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム            B-3-1 1)、B-3-1 2)、B-3-1 3)、B-3-1 4)、B-3-1 5)、F-4-1 1)</p>	中山 章
2	コミュニティファーマシー 教科書：上 p38～55	<p>薬局に必要な法規制（薬局開設者、管理薬剤師、調剤録）について説明できる。            薬局業務運営ガイドラインについて説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム            B-3-1 1)、B-3-1 2)、B-3-1 3)、B-3-1 4)、B-3-1 5)</p>	中山 章
3	コミュニティファーマシー 教科書：上 p270～276、p355～361	<p>健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。            薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。            地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム            B-3-1 1)、B-3-1 2)、B-3-1 3)、B-3-1 4)、B-3-1 5)、F-4-1 1)、F-4-2 1)</p>	中山 章
4	コミュニティファーマシー 教科書：上 p346～354	<p>学校薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム            B-3-1 1)、B-3-1 2)、B-3-1 3)、B-3-1 4)、B-3-1 5)、F-4-1 1)、F-4-2 1)</p>	中山 章
5 6 7	保険薬局と保険薬剤師 教科書：上 p48～53	<p>保険薬局、保険薬剤師の役割(療養担当規則を含む)について説明できる。            調剤報酬点数表について説明できる。            調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。            調剤報酬請求業務について概説できる。</p>	中山 章

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		調剤報酬算定項目について概説できる。 医療保障制度について概説できる。 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-2 2)	
8 ) 9	セルフ Medikation 教科書：上 p270～300	セルフ Medikationにおける薬局の役割について説明できる。 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフ Medikationのために薬剤師が果たす役割を概説できる。 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。 一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 1)、B-3-1 2)、B-3-1 3)、B-3-1 4)、B-3-1 5)	中山 章
10 ) 11	セルフ Medikation 教科書：上 p321～328	セルフ Medikationの対象となる代表的な症状と関連する疾患を列挙できる。 セルフ Medikationに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 薬局製造販売医薬品について概説できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-20 1)、D-2-20 2)、D-2-20 3)	中山 章
12	災害時医療と薬剤師 教科書：上 p340～345	災害時の薬局の役割について説明できる。 災害時医療について概説できる。 災害薬事コーディネーターについて概説できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 1)、B-3-1 2)、B-3-1 3)、B-3-1 4)、B-3-1 5)、F-4-2 3)	櫻田 渉
13 ) 14	在宅医療と介護 教科書：下 p208～217	在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-2 1)、B-3-2 2)、F-4-1 2)	櫻田 渉
15	在宅医療・かかりつけ薬剤師 教科書：上 p10～15, 40～41, 329～339	在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度） 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）及びその意義について説明できる。 かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 地域包括ケアの理念について説明できる。	狭間 研至 櫻田 渉

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 1)、B-3-1 2)、B-3-1 3)、B-3-1 4)、B-3-1 5)、F-4-1 2)	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

期末定期試験（筆記試験）（80%）、授業態度（確認テスト、レポート、演習態度を含む）（20%）により評価する。  
なお、レポート、演習態度の評価では、ルーブリック表を用いる。

【教科書】

新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本 第4版 羊土社  
新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本 第4版 羊土社  
「わかりやすい薬事関係法規・制度（第5版）」神村・早瀬・久保ら著 廣川書店

【参考書】

今日のOTC薬 改訂第5版 中島恵美、伊東明彦 南江堂  
調剤指針（日本薬剤師会編 薬事日報社）  
保険薬局業務指針（日本薬剤師会編 薬事日報社）

【学修の準備】

- ・1～9回目の授業では、予習として講義範囲について教科書を読み、該当するweb問題を解くこと（70分）。
- ・1～9回目の授業では、復習として、正解しなかったweb問題について、教科書、配布プリント等を利用してまとめておくこと（90分）。
- ・10～11回目のPBLにあたっては、事前に資料を配付するので、個々で調べて授業に臨むこと（80分）。また、授業終了後にはClassroomに、解説を掲載するので、授業で取り扱った内容を振り返り、配付資料や講義ノートを参照しながら、各自で理解を深めること（80分）
- ・12～15回目の授業では、予習として講義範囲について教科書を読み、該当するweb問題を解くこと（70分）。
- ・12～15回目の授業では、復習として、正解しなかったweb問題について、教科書、配布プリント等を利用してまとめておくこと（90分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

B 社会と薬学

- B-3 社会・地域における薬剤師の活動
  - B-3-1 地域の保健・医療 1)～5)
  - B-3-2 医療・介護・福祉の制度 1)～2)

D 医療薬学

- D-2 薬物治療につながる薬理・病態
  - D-2-20 セルフケア、セルフメディケーション 1)～3)

F 臨床薬学

- F-4 地域医療・公衆衛生への貢献
  - F-4-1 地域住民の疾病予防・健康維持・増進の推進、介護・福祉への貢献 1)～2)
  - F-4-2 地域での公衆衛生、災害対応への貢献 1)～3)

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

中山 章（薬剤師）、櫻田 渉（薬剤師）、狭間 研至（医師）

( 2026年度・薬学部 )

**【実務経験を活かした教育内容】**

保険薬局での薬剤師としての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している